

常に初陣

平成 26 年 3 月 1 日 発行 特別号  
Shimba kazuya to Ayumukai NEWS

# しんば賀津也

と歩む会  
NEWS



国会対策委員長から  
見た「国会」



参議院議員

しんば賀津也

[www.k-shimba.com](http://www.k-shimba.com)

永田町には「国対族」と言われる人たちが存在する。

「国会対策」という仕事を専門とする議員たちを称してそう呼ぶのだが、この国会対策は裏方に徹する役職だけに一般的には分かりづらい存在かもしれない。国会対策とは、与野党それぞれが自らの政党にとって国会が有利に展開されるよう、国会全体を把握しながら与野党間や衆参両院の間で交渉をすると同時に、所属する会派をまとめ、国会戦略の陣頭指揮をとることをいう。その“作戦本部”が「国会対策委員会」でその総責任者が「国会対策委員長」だ。民主党参議院の国会対策委員会は国会対策委員長を筆頭に委員長代理2名（予算委員会担当と議院運営委員会担当）、副委員長7名で構成されている。これを支える事務局は、党職員4名、国会職員5名の計9名体制。早朝6時台からの新聞記事の切り抜き作業に始まり、本会議や各種委員会の準備、記者会見や各種会議の設営から昼の弁当の用意、国内視察や海外渡航の準備、政策資料の作成や夜の懇談会のセットに至るまで、まさに早朝から深夜まで会派所属の議員たちを支えるプロフェッショナル・チームだ。

「国会対策委員会」の仕事は多岐にわたる。国会全体の日程やそれぞれの委員会で審議される政策の攻めどころ、守りどころを把握して、現場の理事（委員会の責任者）や委員長に具体的な指示を出す。開会中の委員会は院内で生中継されているテレビでチェックをしているが、その他の主要な委員会の中身は当日のうちに刷り上がってくる速記録（議事録）を確認する。国会はそれぞれの政党の政策利害がぶつかり合う場だ。政策ごとに各委員会で党派を超えて連携したり、牽制し合ったりするが、採決に向けた日程等の調整に奔走するのも国会対策委員会の仕事である。日常の委員会の運営は現場の責任者である理事や委員長に任せるが、政策理念の違いや人間関係のもつれで審議が滞ったり、話し合いが没交渉になったりすることが間々ある。政策的な問題は政策調査会長率いる「政策調査会（通称：政調）」が調整するが、それ以外は国対委員長が預かって、各党の国対委員長間で協議や仲裁に入ることになる。したがって、各党の国対委員長間の人間関係が極めて重要になるのは言うまでもない。時には公のテレビカメラや記者団の前で、時には人目をはばかって秘密裏に「国対委員長会談」を頻繁に開催することになる。

委員会や本会議が休憩に入る昼食時間や国会終了後の夕食時間は、我々には憩いの時間ではなく、まさに勝負の時となる。月曜から金曜まで昼食時間は相手が入れ替わり立ち替わりの打ち合わせの時間になるし、夜は他党の国対関係者や官僚、マスコミ関係者との水面下での交渉や情報交換の時間になる。夕食会を複数ハシゴするのは日常茶飯事だ。国対委員長に気力や忍耐力と

同時に“肝臓力”が求められるのはそのためだ。余談だが、かつて自民党などが好んで「国対委員長会談」の場に料亭を選んだが、これは料亭の高い料理を食したいからでなく、料亭が“絶対に秘密が漏れない場所”だったからである。ところが最近料亭から情報がリークされる事案がいくつかあり、その利用頻度は格段に減っているように見受けられる。自分の経験上、雑多な焼き鳥屋の方が意外と情報が漏れないのが実情だ。

国対委員長のさらにもう一つの大事な仕事は、議員たちの公私にわたるトラブルの相談に乗ることだ。週刊誌などのマスコミは常に議員の動向を狙っているし、事実無根であっても報道されたときの政治的ダメージは計り知れない。国会議員として生身の人間だ。様々な問題を最終的に相談できるのが国対であることは少なくない。身内を守る、これも国対に課せられた大事な仕事であることは間違いない。

参議院には、野党が9会派（民主、みんな、共産、維新、結い、社民、改革、生活、無所属）存在する。民主党は野党第一党であるため、与野党の交渉は野党を代表して民主党が行うのが通例だ。この際、自分の党の都合だけで交渉すれば、野党の信頼関係が得られず、結果として野党連携が崩壊する。例えばテレビ中継のある「党首討論」ひとつとっても、党首討論に参加できるのは所属議員が10名以上の政党に限られる。したがって、野党では民主以外ではみんなの党と維新だけなのだ。他の少数野党には出番はない。私としては「党首討論も大事だが、各政党が等しく出番を与えられる予算や決算委員会の開催を…」と政府与党に交渉しなくてはならない。

紙面の都合上、国対の仕事のほんの一部しか紹介できないが、常に私が国対委員長として意識していることが三つある。一つは、国対委員長は裏方に徹すること。状況によっては自分の主義主張を押し殺し、まわりとの調整に努めることだ。したがって、国対委員長が自ら質問に立つことが滅多に出来ないのが通常だ。二つ目が野党連携。「野党の声は国民の声」。どんなに小さな党派でも、無所属の議員でも、その後ろには支援する多くの国民が存在するから、貴重な議席を獲得しているのだ。野党間の信頼醸成と連携を常に意識すること。そうでなければ巨大与党に到底太刀打ちは出来ないからだ。最後に「政局は水際まで」。国内の政局や与野党対決を海外に出さない。国対間のもめ事で外交や安全保障上の国益を害したら本末転倒だ。日本という家の中のゴタゴタを海外という家の外まで持ち込んではいけないと信じている。

心身ともに辛く厳しい役職だが、初心を忘れず全身全霊を注いで職責を全うしたい。

### しんば賀津也プロフィール

参議院：環境委員会委員、国家基本政策委員会委員、政治倫理審査会委員

党 職：参議院民主党国会対策委員長、民主党静岡県総支部連合会会長、民主党お茶振興議員連盟会長、東日本大震災・災害廃棄物広域処理推進議員連盟（がれき処理推進議連）副会長等

その他：静岡県馬術連盟会長、中央大学大学院公共政策研究科客員教授、富士山世界文化遺産両県県民会議顧問、リアルジャパンプロレスコミッショナー等

過去の主な役職：防衛副大臣（鳩山内閣、菅内閣）、外務副大臣（第三次野田改造内閣）、外交防衛委員長、議院運営委員会筆頭理事、外交防衛委員会筆頭理事、国会対策委員長代理、予算委員会理事等